

解 答

1 (D)	2 (B)	3 (A)	4 (C)	5 (B)	6 (A)
7 (C)	8 (A)	9 (B)	10 (D)	11 (A)	12 (A)
13 (B)	14 (D)	15 (A)	16 (B)	17 (B)	18 (B)
19 (D)	20 (D)				

1. 「万一、ご予約に関しまして問題がございましたら、当ホテル支配人までお電話下さい」
 ▶ 後半が please call our hotel manager と命令文になっているので、これを帰結節と考え、前半が条件節になっていると推測する。空所に (D)shouldを入れれば未来を表す仮定法の倒置形となり、意味も通る。(B)couldを用いた仮定法では if の省略は行われない。

ifを省略した仮定法

仮定法における if を省略すると倒置が起こり、疑問文と同じ語順になる。ただし、主語の前に置かれるのは原則として **were/had/should** の 3 つに限られる。

- (1) **Were I you, I would ask her for a date.**
 - ⇒ If I **were** you, I would ask her for a date.
(もしぼくが君なら、彼女をデートに誘うけどな。)
- (2) **Had we known you were in the hospital, we would have visited you.**
 - ⇒ If we **had known** you were in the hospital, we would have visited you.
(もし君が入院していると知っていたら、私たちはお見舞いに行ったのに。)
- (3) **Should there be an earthquake, this bookshelf would fall forward.**
 - ⇒ If there **should be** an earthquake, this bookshelf would fall forward.
(もし地震が起こるようなことがあれば、この本棚は前に倒れるだろう。)

2. 「私たちの乗る沖縄便は、極度の吹雪のために欠航になった」

▶ 直後が名詞 (the terrible snowstorm) なので空所には前置詞 (句) が入る。選択肢の中で前置詞 (句) は (B)due to と (C)for であるが、「～なので」という明確な理由を表すには (B)due to ~ を用いる。(D)as a result は前文の内容を受けて「その結果(として)」という意味の副詞句である。

- | | | |
|---|---|---------------|
| <input type="checkbox"/> due to ~ | } | 「～のために/～が原因で」 |
| <input type="checkbox"/> because of ~ | | |
| <input type="checkbox"/> owing to ~ | | |
| <input type="checkbox"/> on account of ~ | | |

▶ これら 4 つの『原因・理由』を表す群前置詞はほぼ同意で、入れかえて用いることができる。

3. 「フレッドは毎日職場までバスに乗らなくてはならない。なぜならば、車を買うだけの金がないからだ」

▶ 空所は前後の文をつないでいるので接続詞が入る。選択肢の中で接続詞は (A)since [理由] と (C)although [逆接] であるが、文意より (C)although 「～にもかかわらず」は不適なので正解は (A)since 「～なので」となる。(B)besides 「その上」は副詞、(D)despite 「～にもかかわらず」 (=in spite of ~) は前置詞である。

4. 「ジェイソンはまだ本を受け取っていない。違う住所に送られてしまったのかもしれない」

▶ 選択肢には動詞 send の様々な時制・態が並んでいるので、時制と態を決定するキーワードを探す方針で解く。第 1 文の「まだ本を受け取っていない」という内容を受けて、第 2 文では推量の助動詞 might を用いて「違う住所に送った」その原因を述べている。過去についての推量であるから空所は過去完了形で、主語の They = his books であるから「送られた」という受動態でなければならない。よって (C)have been sent が正解である。

5. 「スコットランド中を旅している間、ピートはみんなが親切で手を差し伸べてくれることを知った」

- ▶ 選択肢の品詞は(A)As[接続詞], (B)During[前置詞], (C)While[接続詞], (D)When[接続詞]で、空所のあとは名詞句(his trip through Scotland)であるから、前置詞である(B)During「～の間に」が正解。(A)asが「～なとき」となるのは接続詞の場合で、前置詞では「～のように/～として」の意味しかない。
6. 「フランクに金を貸してくれるよう説得しようとしても無駄だよ。彼は一文無しだもの」
- **It is no use[good] doing** 「～してもむだである」
- ▶ 真主語が doing以下の形式主語構文。goodはuseよりも口語的。
It is no use[good] worrying about the past.
 (過去のことをくよくよしても無駄だよ。)
 cf. **There is no doing** 「～することはできない」
7. 「タカシの好きな料理の1つはカレーだ」
- ▶ 空所に入る名詞と呼応する動詞がisであるから、空所に入る名詞は単数形である。**one of + 限定複数名詞**で「～の1つ[1人]」という意味であるから、(C)oneが正解。(B)every of ~の形はない。
- [例] *One of the girls was[[×]were] late.*
 (女の子の1人が遅れた。)
8. 「その本、どうなったか知ってるよ。ポールがジェニーの机から持って行くところを見たよ」
- ▶ 選択肢は動詞takeの様々な形が並ぶが、空所の前のsawがポイントに着目する。知覚動詞seeは、see A *doing*で「Aが～しているのを見る」という意味であるので(A)が正解である。
- **see A doing** 「Aが～しているのを見る」
- **see A done** 「Aが～されるのを見る」
- **see A do** 「Aが～するのを見る」
- 動詞の原形と現在分詞の違い**
- (1) *We saw a duck cross the street.*
 (私たちはカモが通りを横切るのを見た。)——動作の一部始終
- (2) *We saw a duck crossing the street.*
 (私たちはカモが通りを横切っているのを見た。)——動作の一部
- 動詞の原形を使った場合は、その動作が始まってから終わるまでのすべてを見たり聞いたりすることを表す。現在分詞の場合は、その動作の一時点を見たり聞いたりすることを表す。
9. 「シンプソン教授は、出席に関する方針の厳しさで学生の間で有名だ」
- ▶ 選択肢がすべて前置詞である設問は、空所が慣用表現の一部である場合と、文の内容に相応しい意味をもつ前置詞を選ばせる場合の2通りがある。
- 本問では、Professor Simpson is well known among his students () his strict attendance policy.となっている。シンプソン教授の厳しい出席方針は、彼が「よく知られている」原因であるから、be well known for ~「～で知られている」となる(B)forを選ぶ。
- | be knownと結びつく4つの前置詞 |
|--|
| (1) □ be known to A 「A(人)に知られている」 |
| (2) □ be known by A 「Aによってわかる」 ——『判断の基準』のby
<i>We are known by the company we keep.</i>
(人は付き合う仲間によってわかる。) |
| (3) □ be known for A 「Aで知られている/有名である」 [主語 ≠ A] |
| (4) □ be known as A 「Aとして知られている/有名である」 [主語 = A]
<i>Atami is known for (its) hot springs [as a hot-spring town].</i>
(熱海は温泉で[温泉町として]知られている。) |
10. 「アンディーとステファニーが到着した頃には、コンサートはすでに始まっていた」

- ▶ arrived(過去形)より前の時制なので, had already started(過去完了形)になる。
 - **by the time** ~「～するまでには」——『完了の期限』
 - ▶ until[till]と混同しないように
 - cf. { I will be back **by the time** you leave. (君が帰るまでには戻ります。)
I will be here **until** you leave. (君が帰るまでずっとここにいます。)
- 11. 「リチャードの父親は、週末までに家のペンキを塗るよう彼に命じた」
 - ▶ すべてが『終わり』に関する名詞であるので、文脈から判断する。
 - (A)end「(時間行為などの)終わり」, (B)final「決勝戦、期末試験」, (C)finish「仕上げ」, (D)last「[the ~]最後の人[物,事], 結末」。
 - **by the end of** ~「～の終わりまでに」
 - cf. **at the end of** ~「～の終わりに」
- 12. 「ジョンは具合が悪かったので柔道大会を棄権した」
 - ▶ 直後が前置詞fromなので()には自動詞が入る。他動詞である(C)removed「～を取り除く」, (D)rejected「～を拒否する」は不可。残る(A)withdrew「取り消す」, (B)cancelled「中止する」から文意に合う(A)を選ぶ。
 - **withdraw from** ~「～から手を引く, [競技などの]出場を取り消す」
 - They are planning to withdraw from the Chinese market.
(彼らは中国市場からの撤退を計画している。)
- 13. 「ジョーは腕を負傷し, 今週末はラグビーをできそうにない」
 - ▶ 選択肢には体の不調を表す動詞が並んでいる。主語が人(Joe)で目的語が腕(his arm)なので, (B)injure「(事・人が)(人・身体など)を傷つける」が正解。injureの代わりにhurtも使える。
 - [例] He **injured** his arm in the accident.
(彼は事故で腕をけがした)
 - ▶ (A)upset one's stomach「胃がむかむかする」, (C)harm「(人・物・事が)(人・物・事)を害する」, (D)trouble「(事が)(人)を悩ます/(人が)(人)に面倒をかける」。
 - [例] Milk always **upsets** my stomach.
(牛乳を飲むといつも私は胃の調子がおかしくなる)
It can **harm** your eyes to read in the sun's light.
(日の当たるところで読書をすると目を痛めことがある)
My stomach is **troubling** me.
(胃が痛い)
- 14. 「ビルが帰宅したとき, 時間はとても遅く, 子どもたちはぐっすり眠っていた」
 - ▶ 選択肢にはsleepの様々な品詞(原形, -ing形, 過去形・過去分詞, 形容詞)が並んでいる。空欄前のsound「ぐっすりと」は(D)の形容詞asleep「眠っている」を修飾する副詞で, (B)sleepingを修飾する場合はsoundlyを使う。
 - [例] He is sleeping soundly. (= He is sound asleep.)
(彼は熟睡している。)
- 15. 「先週、私も庭で蛇を見つけたの。だから、あなたが家の庭で蛇を見たとき、どんなに怖い思いをしたかよくわかるわ」
 - ▶ 空欄直後が『to+名詞節』になっているので,()には自動詞が入ると予測できる。選択肢の中でtoにつながる自動詞は(A)relateと(D)consentであるが, 文意より relate to A「Aに共感する」の意をもつ(A)relateが正解である。
 - **relate to A** 「Aに共感する」
 - **consent to A** 「A(考え・提案など)を承諾する」
 - ▶ (B)express「～を表現する」, (C)accept「～を受諾する」
- 16. 「科学者たちの考えでは、天の川銀河にはおよそ1000億の恒星が含まれている」
 - ▶ 選択肢はすべて副詞である。空欄の副詞はあとに続く100 billion(1000億)という『数』を修飾していると考えられるので, (B)approximately「おおよそ, 約」

(=about/around)がふさわしい。

(A)close to + 数字「～に近い」ならば可能だが, closelyは「密接に」の意。

[例] Our speed fell to close to 10 kilometers per hour.

(スピードは時速10キロ近くまで落ちた。)

(C)significantly「有意義に」, (D)measurably「測定できるほどに」

17. 「トニーは政府のガソリン増税案に不満であり、政府案への反対を表明している」

- ▶ 空欄直後のto the planに着目する。選択肢には否定的な感情に関する名詞がならぶが, toに結びつくものは(B)opposition「反対」のみである。

opposition to A 「Aに対する反対」

There was some opposition to his proposal.

(彼の提案に対していくつか反対があった。)

conflict with A 「Aとの対立」

concern about A 「Aへの心配」

18. 「郵便配達員は天候にかかわらず毎日郵便物を届けることになっている」

- ▶ 空欄直後のofにつながる語法をもつものは(A)instead of ~「～の代わりに」と (B)regardless of ~「～にかかわらず」であるが, 文意から(B)を選ぶ。

- ▶ (C)nevertheless「それでもかかわらず」は副詞, (D)despite「～にもかかわらず」は前置詞。

『讓歩』を表す群前置詞

in spite of ~「～にもかかわらず」 (= despite)

for all ~「～にもかかわらず」 (= in spite of)

regardless of ~「～にもかかわらず/～にかまわず」 (= in spite of)

19. 「君の誕生日、忘れちゃって本当にごめんなさい」

- ▶ 選択肢には人の感情に関する名詞がならんでいるが, 文法的には正しいので文意から判断する。for以下で誕生日を失念していたことを述べているので (D)apologies「謝罪」が適切である。

(A)concern「心配」, (B)feeling「感情」, (C)sympathy「同情, 共感」。

- ▶ Please accept my apology [apologies] for ~「～に関して誠に申し訳ありません」という定型表現である。

20. 「ジョーンズ教授、私の論文をどうやったらもっと良くできるかに関して、どんな助言でもいただければありがとうございます」

- ▶ 選択肢には感謝を表す(分詞)形容詞が多く並んでいるが, 主語であるany adviceがポイントである。(A)pleased, (B)grateful, (C)thankfulは人が主語になる叙述形容詞であるのでany adviceを主語にできない。I would appreciate any advice ...が受動態になったと考えて, (D)appreciatedを選ぶ。

be pleased with [about, at] A 「(人が)～を喜ぶ, ～が気に入っている」

be grateful to A for B 「(人が)B(行為など)に対してA(人)に感謝する」

be thankful to A for B 「(人が)Bに対してAに感謝している」